

# 造山第2号古墳現地説明会資料

1998年1月11日

岡山市教育委員会

## はじめに

本日ご覧頂く埴輪列は造山古墳群をめぐる遊歩道建設に際し発見されたものです。当教育委員会では埴輪が列をなして並んでいる状況自体が重要なものと判断し、岡山市観光物産課と協議の上、最低限の記録をした上で遊歩道の設計を若干変更して現状で保存することにしました。将来の調査などに備えこの度は地中にもどしてしまうことになるため、できるだけ多くの人にご覧頂くようこの説明会を企画しました。

## 1. 造山古墳と造山古墳群

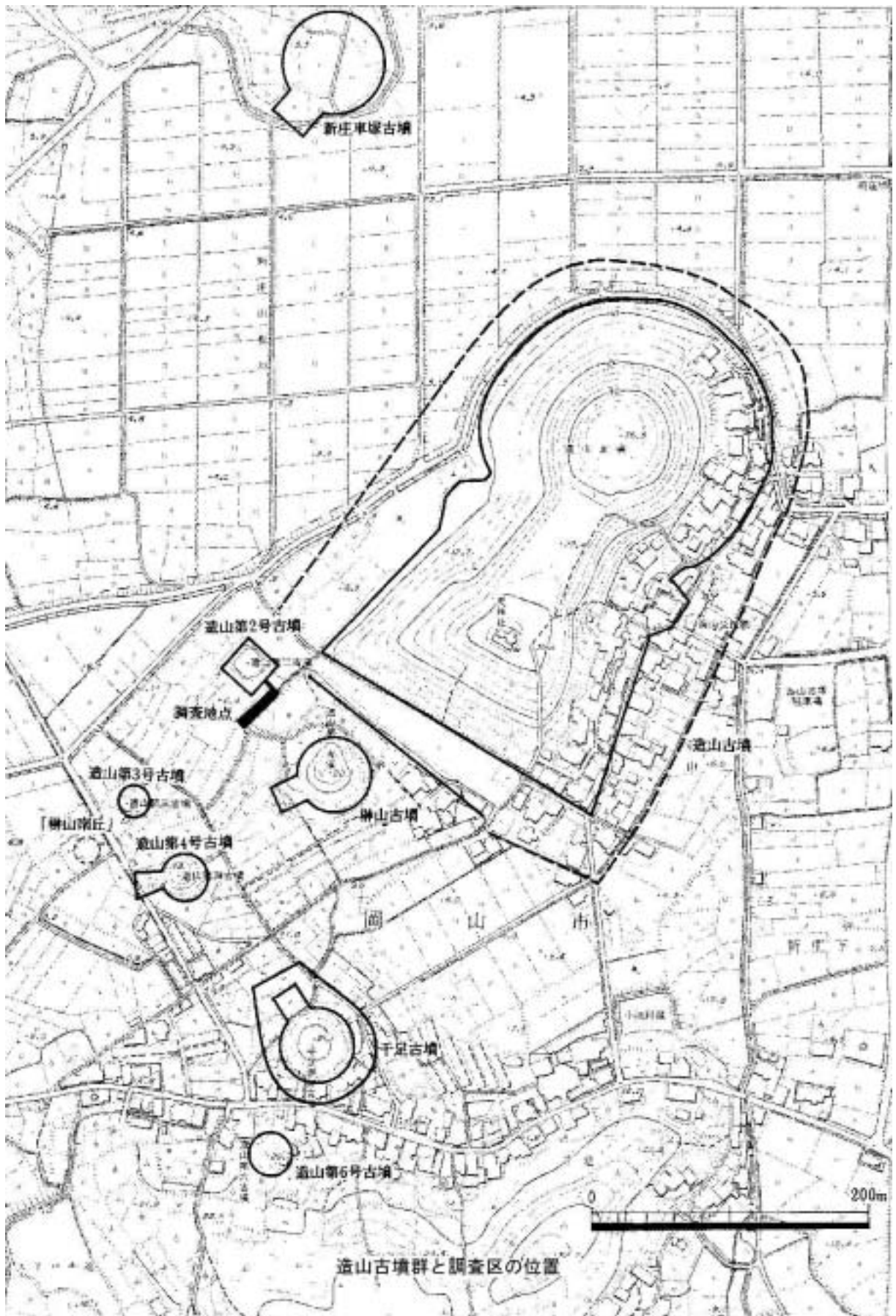
造山古墳は全長約350mを測る全国第4位の巨大古墳であり、自由に立ち入りできる古墳としては最大の古墳です。周辺には全国第9位の作山古墳など数多くの古墳をはじめ備中国分寺・国分尼寺など古代遺跡の集中する「吉備」の中心的地域です。

造山古墳は5世紀前半の吉備の「王」の墓といわれ、西側一帯には造山古墳に葬られた王に仕えた近臣たちの墓（陪塚）といわれる中小規模の古墳が現在6基存在しています。このうち榊山古墳（第1号古墳）と千足古墳（第5号古墳）は古くに発掘され、朝鮮半島からの輸入品と思われる馬形帯鉤（ベルトのバックル）などが出土しています。また造山古墳前方部にある石棺や千足古墳の石室は九州産の石材を使用したり、九州地方独特の構造をしており、こうした地域との外交関係をうかがわせます。

## 2. 造山第2号古墳

第2号古墳は現状で一辺約20mの方墳です。また、造山古墳の区画と密接な関係が指摘されており、副葬品をおさめるための古墳や祭壇のようなものではないかともいわれています。

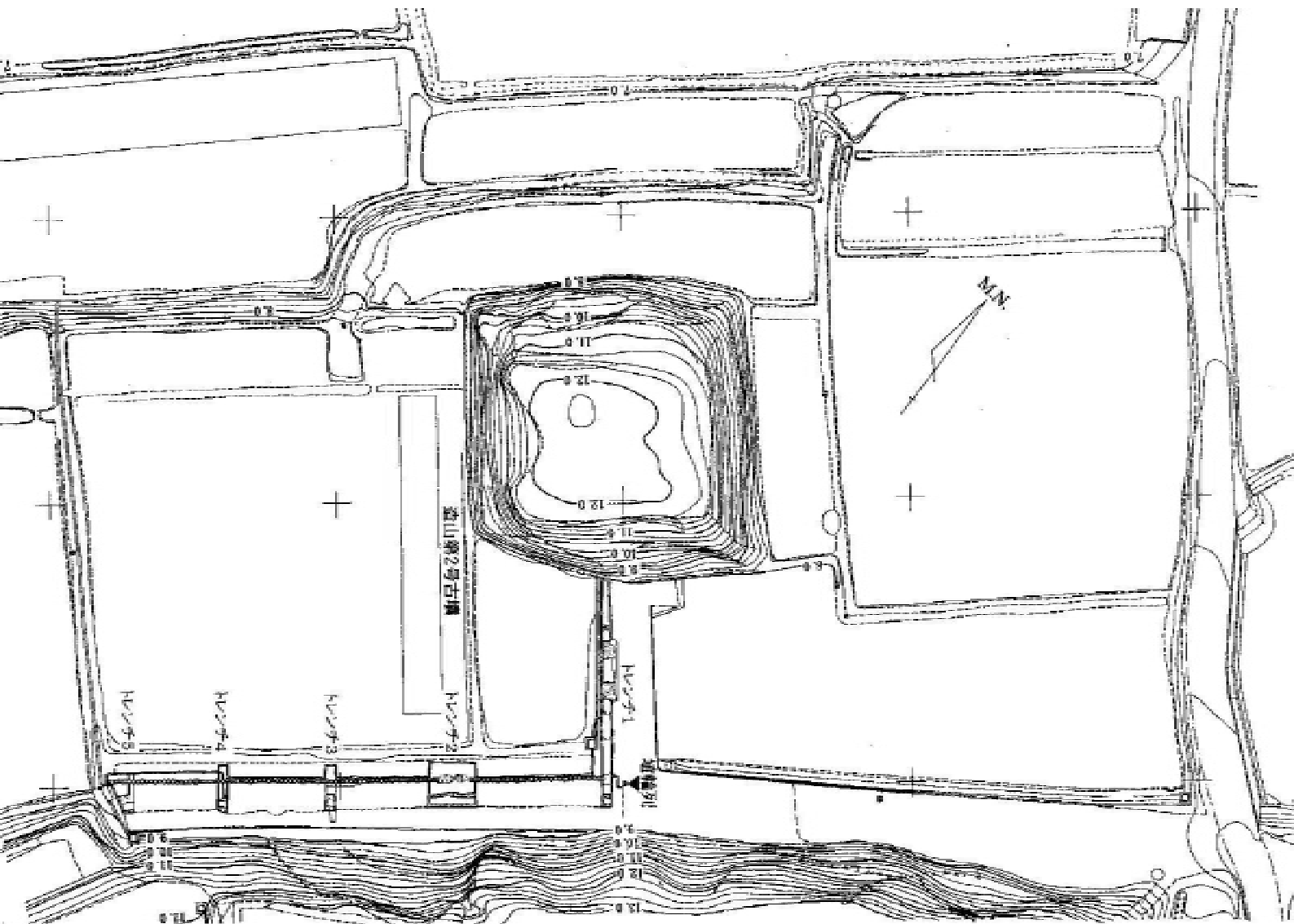
第2号古墳は造山古墳の外帯の北西の角に接して築かれているといわれ、また南側の丘陵は造山古墳前方部墳端の延長線で加工されているようで、その線に平行して第2号古墳が築かれているとみることもできます。いずれにしても、古墳群のほかの古墳が丘陵の尾根筋などに立地し、造山古墳との設計上の関係を見い出しにくいのに対し、第2号古墳は造山古墳の区画に密接な関係があることは確かなようです。



### 3. 埴輪列・埴輪の特徴

埴輪列は第2号古墳の南辺，あるいは第2号古墳南側の丘陵斜面に平行におよそ100本ほどが35m程度の範囲にわたって一列に並べられています。検出された範囲より東側は水田の区画によりどこまで続いていたかは分かりません。また西側も遊歩道の計画範囲から出てしまうため，真っすぐ伸びているのか，第2号古墳を囲むように曲がるのかは分かりません。位置的には第2号古墳に伴う埴輪列である可能性が高いのですが，第2号古墳と一定の幅をへだて囲んでいるのではないようで，様々な見解があがっています。

埴輪列の埴輪には，現在のところ円筒埴輪，盾形埴輪が存在しており，短甲形埴輪の可能性のある破片もあります。時期は埴輪の特徴から5世紀後半と考えられ，造山古墳よりやや新しい時期と思われます。



造山第2号古墳と調査区

